

新生児けいれんがあろうとなかろうと、コントロールされるものは平均6歳後にコントロールされ、コントロールまでの期間は平均3年強かかっていた。

全体としては、痙性四肢まひ、痙性両まひ、痙性片まひ、アテトーゼの順でてんかんの合併がみられ、てんかんの発症は脳障害の程度に依存していると推測された。

5) 精神科リエゾン外来で「てんかん」に関する診断・治療を求められた症例の検討

稲月 原・田村 絹代
松井 征二・横山 知行
熊谷 敬一・関 美好
伊藤 陽 (新潟大学神経医学)

新潟大学精神科では1984年より精神科コンサルテーション・リエゾン外来(以下、リエゾン外来)を毎週木曜日に設け、主として他科から診察依頼のあった患者の診療を行っている。今回、我々はリエゾン外来が開設されてから9年間にてんかんに関する診断・治療を求められた23名について検討を行った。

その結果、①精神科受診時年齢は6歳から71歳にわたり、30歳代が最も多かった。②てんかんか否かについての診断を求められたものが最も多く、次いでてんかん発作の治療を依頼されたものが多く、てんかんと関連する精神症状の治療を依頼されたものは少なかった。③意識減損様発作についての診断を求められ、複雑部分発作との鑑別が問題となることが多かったが、実際の診断はヒステリーや恐慌発作など非てんかんとされることが多かった。⑤診断は、本人ならびに目撃者の陳述した発作時の症状に基づいてなされることが多かった。⑥てんかん患者が身体疾患で手術を受け、抗てんかん薬の経口摂取が不可能になった時は、PHT 静注で血中濃度を至適範囲に維持することが行われていた。⑦てんかん患者は精神科通院が継続されることが多いが、いったん他科を受診した非てんかん患者は脱落・中断することが多かった。

以上のように精神科リエゾン外来はてんかんか否かの診断を求められることが多い。その診断は主として患者や目撃者から得られた発作時の症状に発作間歇期の脳波を加味して行われることから、コンサルテーション・リエゾン活動に携わる精神科医はてんかんの発作時症状、とくに複雑部分発作について熟知しておくことが必要である。

診断は、実際にはてんかんであることは少なく、ヒステリーや恐慌発作などの精神科領域の疾患であることが

多い。しかしこのように診断された患者の精神科通院は中断されやすく、精神科的疾患として扱われることに抵抗があると思われた。したがって精神科領域の疾患であると診断できても医者側の見解を断定的に患者に伝えず、患者自身の症状に対する捉え方を尊重しつつ、患者の不安を軽減するよう支持的・受容的に接してゆくことが必要である。精神科に対して強い抵抗がある場合には、身体科と精神科の両者で follow up をしたり、場合によっては身体科に follow up をまかせ、精神科医は身体科の医師や看護スタッフに対してアドバイスをこなすべくという方法も検討されるべきであろう。

6) Dysembryoplastic Neuroepithelial Tumor (DNT) と診断された側頭葉てんかんの2例

田村 彰・亀山 茂樹
本田 吉穂・山崎 英俊 (新潟大学)
川口 正・田中 隆一 (脳神経外科)

Dysembryoplastic Neuroepithelial Tumor (DNT) は、1988年にフランスの Duport らが初めて提唱した、特異な臨床病理学的特徴を持った疾患である。その後、わが国でも報告されるようになり、当科でも臨床経過、病理学的所見から DNT と診断された症例が2例ある。これらはどちらも薬剤によるコントロールが不良な、てんかん患者であったので、その臨床経過、画像診断、術中所見について報告する。

症例1:22歳、女性。6歳の時、意識喪失発作で発症。CT で右側頭葉に脳梗塞が、後に MRI で Low Grade Glioma が疑われ手術されることになった。肉眼所見から腫瘍と思われた部位を摘出し、更に術中 Corticogram を記録して、Spike のでる範囲の Corticectomy を施行した。術後発作は減少した。

症例2:44歳、女性。19歳の時、意識喪失発作と精神運動発作で発症した。CT と MRI から、Medial Sclerosis または Glioma の診断で手術をおこなった。術中の Corticogram で Spike の見られた Uncus を含めて Lt Temporal Lobectomy を行い、術後発作は減少した。

DNT の特徴は、Dupot らによると以下の通りである。

難治性てんかん発作を持つ若年者に発見される。

Lesion は主に側頭葉、前頭葉の実質内に存在する。

CT では Cyst を思わせる Low Density を示すが手術所見では実質性の病変である。

病理組織上は、Astrocyte, Oligodendrocyte, Neuron